

2020年NHK大河ドラマ「忠勝伝」

本多忠勝



<内容>

全体の事業PRのための、チラシ・ポスターを制作する他、本多忠勝・「慶長の町割」といったトピックスをもとにしたトークショー・講演会・シンポジウムなどを催していく。本多忠勝を縁としてつながる千葉県大多喜町や岡崎市などとも連携していく。

<経緯>

2021年は本多忠勝が入府して420周年にあたり、桑名城や城下町を築いた「慶長の町割」からも420年の節目の年である。

昨年のブランド推進委員会の中で、桑名の歴史をPRし、「本多忠勝」をテーマとした大河ドラマの誘致に繋げていくことが提案された。

【参考】2019年度地方創生推進交付金実施計画

<目指す将来像>抜粋

桑名は関ヶ原の戦いの後、慶長6年（1601）に徳川四天王の一人本多忠勝が入り、桑名城と桑名城下町を建設した。「慶長の町割」と呼ばれ今でもこの町割による区画、町名が残り、桑名発展の基礎がこの時に出来上がった。また、東海道唯一の海路七里の渡し到着地として、そして42番目の宿場町として、多くの旅籠を有した宿場町であり、東海道を行き来する人、伊勢参宮へと向かう人など多くの旅人が経由していった。その玄関口が、住吉地区および七里の渡し周辺であり、この地域の魅力や価値を桑名ブランドとして戦略的に事業展開し、新たな賑わいを生み出し交流人口の増加につなげていき、地域の活性化を図る。事業期間内の2021年は、「慶長の町割」から420年の節目の年であり、21世紀の新たな「桑名のまちづくり元年」と位置付けていく。